

2006年4月25日

ジャーナリズムの現在・第2回

「スクープとネットワーク」

TBS報道特集 根津千景

◆自己紹介

◇東横インの取材

- * 取材の経緯
2枚の設計図→VTR
隠し撮りの方法
当初想定していた取材順序
- * 情報管理と取材源の秘匿
信頼できる相談相手
関係各所の取材時の注意点
取材後も取材源を守る

◇ボイスレコーダー

- * 番組の概要ときっかけ→VTR
2003年テレビ報道50年SP→VTR
- * 取材相手との関係
その場かぎりでなるべくおわらせない
時には必要な適度な距離感
- * 過去の出来事を掘り返す番組の良いところ
宮崎勤の例

◆私が思う課題

- * 「おいしい話」には裏がある、かも
情報提供者の「思い」を見極める

◆質疑応答

リアクション・ペーパーについてのコメント

つたない話を多くの学生さんが熱心に聴いていただいた上、皆さんの暖かい感想を頂き、私自信も今後の仕事に対しての大きな励みにつながりました。その中に、いくつか質問があったので、お答えします。

Q 人間的なつきあいをする中で自分が会社としての一人なのか、個人としての一人なのか、ということを考えてたりして、深く踏み込めなかったり、踏み込みすぎたりしてしまったことはありますか？

A 取材相手とのお付き合いをする上で常に悩む点です。いくら仕事であっても相手に踏み込もうとすれば、必然的に、こちらも自分をさらさなければならぬ時があると思います。取材中は基本的に私はTBSという放送局の人間として相手と対峙している、という意識は持っていますが、どこからどこまでが、「取材」で「取材以外のお付き合い」なのか、ということについては「相手による」というのが正直なところだと思います。

Q (東横インの取材で) もとの図面にもどしたホテルが障害者に使いやすい部屋になっているのか、条例に問題がなかったか、など改めて取り上げて欲しいです。

A おっしゃる通りです。報道特集では、「ビジネスホテルのようなコストを抑えなくてはならないホテルでも、障害者も使える部屋をどのようにしたら作れるのか？」というテーマの取材も予定していました。実際、そのような取り組みを始めているビジネスホテルもあるので、一つの示唆になると思ったからです。それがお話をさせて頂いたとおりに、急な放送になってしまい、その部分については放送できませんでした。条例についても、ビジネスホテルに対してはあまりにも実態に合っていないのでは、という声もありました。今後の課題にできればと考えています。

Q 「やましさはなかったのか？」という言葉について東横インの社長が偽装を認知、または指示していたというウラはとれていたのか？根津記者が社長に自身の価値観を押し付けているのではないか？

A 厳しい質問ありがとうございます。番組では説明が足りなかったかもしれませんが、東横インの社長はその日の会見で自身が「条例違反を認知していたこと」「指示をしていたこ

と」を認めています。私の質問に関しては様々な捉え方があるのは覚悟の上ですが、時には自分の価値観からの質問をすることはあります。あの場合は社長自身が全部認めていたので、あとはそこに「罪の意識があったかどうか」を人間として聞きたかったのではそのような質問になりました。

以上、全てにお答えできずに申し訳ありません。また、講演の中で「新聞の場合は電話一本で書けるので・・・」などと申しましたが、それは朝日新聞さんに抜かれた悔しさからの発言で、情報をとる苦労は新聞もテレビも雑誌も全て同じだと思います。若輩ゆえの発言ということでお許しください。